

英語のプレゼン力を磨く貴重なチャンス。 海外へはばたくステップにも活用したい。

口演発表最優秀賞

Three cases with Trousseau syndrome related to lung cancer complicated by pulmonary embolism at early date

埼玉病院 初期研修医 高橋 桃

帰国子女でなくても準備すれば大丈夫。 英語での発表に自信ができました。

——応募のきっかけと発表テーマは？

指導医の先生から応募のお誘いを受け、学生の時に医学英語をたしなんでいたこともあり、チャレンジしてみました。

今回発表したのは、肺がん患者で受診から早期に肺塞栓を合併した4症例のうち3症例で後に多発脳梗塞（Trousseau症候群）を発症したケースの報告です。これら3症例は肺塞栓後、ワーファリンや直接経口抗凝固薬（DOAC）などの抗凝固療法を継続していたにも関わらず、Trousseau症候群を発症し、また、Trousseau症候群の治療で長期的にヘパリン皮下注を継続すると脳梗塞を再発しなかったことから、担瘤患者で過凝固状態をきたした患者には、ヘパリンを予防的、治療的観点から長期的に使用するのが望ましいという内容を発表しました。

Trousseau症候群に関する症例報告やレビュー

はいくつかあるものの、ガイドラインはなく、治療が確立されていないのが現状でしたので、今回、取り上げさせていただきました。

——どんな点に苦労しましたか？

英語での発表は初めてだったので、スライド作成が一番大変でした。指導医の先生に何度も添削されながら何とか完成しました。

英語での発表は堂々と、はきはきしゃべるように意識しました。私は帰国子女ではなく、集中しないと英語が理解できなくなってしまうので、3週間前から断酒して集中力を高めました。質疑応答に関しても想定質問を英語で考え、しっかり準備したので、ほぼ思い通りに答えることができました。多少難しい質問でも引き出しをたくさん作っておけば、それに結びつけて何とか答えられると思います。英語で6分間のプレゼンテーションですので、皆さん、き



ちんと準備して発表されていましたね。

——今後参加する方へのアドバイス

いきなり海外の学会で発表するのは緊張します。研修医の時にまず国内の学会で、英語で発表してみるというステップは大切だと思います。帰国子女でなくても入念に準備をすれば英語の発表も無事行うことができます。ただ、英語は定期的に触れないと忘れてしまうので、英語のセミナーは時間を見つけて参加していきたいですね。

医師としては、患者さんを治したいという気持ちを常に持ち続けて、それに向かって正しい判断力・技術力を磨いていこうと日々研鑽中です。

口演発表最優秀賞

Successful repair with azygos venous patch for coronary artery stenosis late after arterial switch operation

四国こどもとおとなの医療センター 小児心臓血管外科 細谷 祐太

1つ1つの症例に真剣に取り組みながら 第一線で活躍できる医師を目指したい。

——応募のきっかけと発表テーマは？

研修医2年目の昨年度、同期がポスターセッションで発表しました。その姿を見て刺激を受け、今回、応募しました。発表テーマは「奇静脈」を血管形成のパッチとして用いることです。小児領域ではパッチを使った血管形成がよく行われていますが、パッチ材料についてはまだ議論されているところで、奇静脈はパッチ材料としてほとんど認知されていません。そのため、今回の発表のテーマに選びました。

——苦労した点や他の発表の印象は？

多くの検査や手術動画など、たくさんの情報がある中、使う資料を取捨選択するのもとても苦労しました。英語での発表は、聴き手が内容を100%理解するのは難しいと思います。特に今回の題材は、先天性心疾患というマイナーな分野であった

ため、できる限り簡潔で分かりやすく発表することを意識しました。

発表の出だしは緊張で頭が真っ白になり、少し間が空きましたが、全体的にはうまくできたと思います。特に堂々と発表するという当初の目標はしっかり実行できたのではないかと感じています。もう少し身振り手振りを加えてTEDのように発表できれば100点ですが…。

準備、練習を含めて、今後のスキルアップにつながる良い機会になりました。英語が得意でない方こそ、参加をおすすめします。発表の練習だけでなく、質問される内容を想定したり、予想外の質問がきた時にどう答えるか、考えたりすることは非常に勉強になりました。

発表者の約半分が初期研修医ということに驚き、刺激を受けました。本格的な研究を発表している人もいて、見習いたいと思いました。



——今後の目標を教えてください

副賞として国際学会への参加費用が補助されるので、米国かヨーロッパの学会に参加したいです。また、学会参加と同時に、1週間程度でもいいので、先天性心疾患の症例数の多い病院や第一線の医療現場を見学できればと考えています。

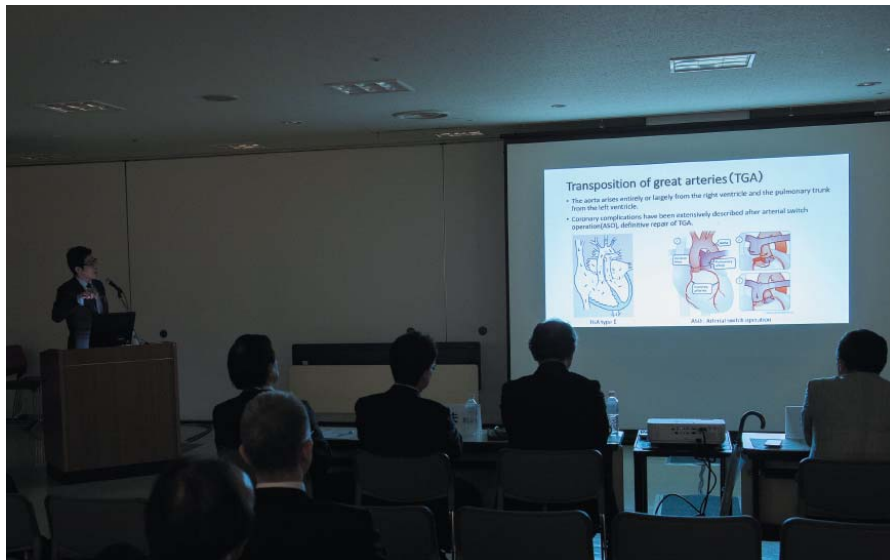
医師として心がけているのは、1つ1つの症例を大事にすることです。特に小児心臓血管外科という領域では同じ症例がほとんどないため、症例ごとにしっかり考えるという意識で日々勉強しています。小児心臓血管外科医として、第一線で活躍できるように頑張ります。



ポスターセッション



ディスカサントの先生方



口演発表



ベストポスター賞

A resolution of worsening renal function in a 78-year-old woman with chronic heart failure by cessation of NSAIDs

東近江総合医療センター 初期研修医 五島 隆太

「臨床の知恵」を学問へ昇華する 刺激的な学びを経験できました。

NSAIDsを定期内服していた心不全患者に、利尿剤とACE阻害剤を開始した途端に腎機能不良が出現し、NSAIDsを休薬することで腎機能不良が解消した一例を取り上げました。

心不全の患者は腎機能不良を合併しやすく、予後の悪化をもたらすことが報告されています。今回の症例では、定期内服していたNSAIDsは当初、悪さをするようには見えませんでした。ところが、ACE阻害剤と利尿剤を始め、利尿剤を増量した時期に腎機能不良が出現。利尿剤の減量では改善が得られず、NSAIDsに注目し、休薬したことで腎機能不良の解消につながりました。心不全の治

療では、利尿剤とACE阻害剤は頻繁に用いられます。心収縮不全型心不全の治療開始の際には、特に前もってNSAIDsを休薬することが腎機能不良の予防につながるのではないかと可能性に言及しています。今回の症例は当初、増量した利尿剤が原因であると考え、NSAIDsの休薬まで遡りした経緯があったので報告させていただきました。

英語のプレゼンテーションは初めての経験で大変苦労しました。英語での自然な表現に触れる機会が少なかったため、述べるべき内容をどう表現すればいいか、とても悩みました。伝えたいことはな



んとか発表できましたが、聴き手の質問に英語で答えられなかったのが一番の反省点です。しかし、自分が経験した症例の記録を考察し、報告して共有する。臨床の知恵を学問につなげる「知の営み」にチャレンジできた点は大きな収穫だったと感じています。



ベストポスター賞

CFD prediction for the thrombus formation after endovascular occlusion of a distal anterior cerebral artery aneurysm

三重中央医療センター 初期研修医 佐藤 丈典

他病院で報告がない治療法を知らせたい。 英語の表現に悩みながらまとめました。

テーマは「最先端の脳動脈治療」です。脳動脈瘤の血管内治療において、CFDを用いて親血管の血栓化モデルを予測、治療に臨んだ症例です。

ポイントは、in vitroの血栓予測モデルの報告を参考に、CFDで血栓化モデルを割り出し、血管内治療を施行し、予測した通りの結果が得られたことです。この治療法は当院で6例の経験がありますが、他病院ではまだ報告がありません。しかし、事前に治療結果を予測できることは、患者にとっても術者にとっても利益があると考えます。少しでも多くの

方にこの治療法を知っていただきたいと思い、このテーマを選びました。

大変だったのは、解剖を把握して参考文献を理解し、さらにそれを英語でいかに分かりやすく第三者に伝えるか、ということです。おおむね準備通りに進められましたが、かなり悩みました。

他の方々のテーマも意欲的で、中でもウイルス性の脳梗塞の症例発表は印象的でした。また、CTを使った大腸内腔再構成はとても有用だと感じました。同じ治療法でも工夫次第で多彩なアプローチ



が可能なのだということが一番の学びでした。今後、さまざまな治療・手技を経験していくと思いますが、常に考えながら、疑問を持つ姿勢を忘れずに取り組んでいきたいです。